

## 平成30年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

グローバル社会を生きぬく

1 ネットワーク 2 フットワーク 3 ヘッドワーク

3つのワークを大切に、実行できる生徒を育てる学校

## 2 中期的目標

1. 学ぶ力をつける。次期学習指導要領を見据えて、生きて働く「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現等」の育成をめざす。
  - (1) Wi-Fi 環境を整備し、スマートフォンやタブレット端末を授業で活用できるようにすることで生徒の情報活用能力を高め、これからの知識基盤社会を生き抜く力を育む。
  - (2) グローバル社会における「国際共通語」としての英語の4技能をバランスよく高め、世界で働くことのできる人材を育成する。
  - (3) 生徒の学力向上と進路実現を支援するために、進路講演会及び放課後や土曜日を活用した無償・有償の講習を行う。
  - (4) 「授業力向上等検討委員会」を中心として、アクティブラーニングや授業形態の工夫、観点別評価等により、生徒が主体的に参画する授業への改善を図る。各教科の授業の指標である「桜塚教科スタンダード」のブラッシュアップを絶えず行い授業力の向上をめざす。
  - (5) 朝学（総合基礎）を充実させ、基礎的・基本的な学力の確実な定着・充実に努める。SSSC(Sakura Study Seminar Camp) [1年勉強合宿]を実施して、入学直後から自らの進路実現のため真摯に努力する態度の涵養を図る。
  - (6) 専門コース（グローバルスタディコミュニケーションコース [G S C]）とグローバルスタディサイエンスコース [G S S]）制を生かし、生徒の学力の更なる効果的な向上を図り、第一希望の進路実現を図る。幅広い科目の学習を進んで行う態度を涵養することで、国公立大学（50名）への進学を目標とするだけでなく、高校卒業後のさまざまな進路において活用できる知識・技能や興味・関心を身につけ、「課題に向き合い、解決をめざす」人材の育成を図る。
- ※ 学校教育自己診断における生徒向け設問「授業はわかりやすい」に対する肯定的評価の60%を向上させ65%にし、2020年度には70%をめざす。
- (7) 自宅学習、自習室の活用、講習、補習を積極的に取り組める体制づくりを行う。
2. 人間力をつける
  - (1) 人間関係構築の第一歩として、あいさつがさらにしっかりと行われる学校をめざし、「あいさつ運動」を実施すると共に遅刻数を減少させる。
  - (2) 教育相談体制の充実。「生徒一人ひとりを大切にする」本校の教育を推進し、カウンセリングマインドを取り入れた指導を組織的に行い、生徒相談機能を高める。
  - (3) 地域連携・地域貢献活動・国際交流活動を行うことで異世代・異文化との交流に生徒が参画し、教員は活動を支援・促進する。
  - (4) 部活動、自治会活動等を通じて生徒に達成感や自尊感情を育む。
3. 地域の信頼される学校としての桜塚を促進・広報する
  - (1) OB・OG、豊中市役所をはじめとする公的機関、大学、各種団体との連携と支援を生かした取組みを展開する。
  - (2) 平成24年度に岩手県立大槌高等学校と締結した「さくら協定」に係る事業を発展させ、東日本大震災の被災地に寄り添い連携する態度のさらなる涵養を図り、持続的な支援や交流を行う。
  - (3) WEB Page を更に見やすくし、更新を頻繁に行う。生徒も、WEB Page の部活動・自治会活動部分の更新等に参画。中学校訪問や学校説明会等を開催して広報活動を積極的に行う。
4. グローバルリーダーの育成
  - (1) 国際社会で通用する人材を育成するため、異文化や習慣の違いを尊重する精神を育む為に国際交流を積極的に進める。長期、短期の留学生を積極的に受け入れる。
  - (2) 国際的なコミュニケーション能力を育成するために、国際的共通語としての英語のコミュニケーション能力の育成に努める。「めざす学校像」を実現させる為に、専門コース制を生かし、より英語や理数系科目を強化し、高い志と夢を持ったグローバルリーダーを育成する。
5. ティーム力を生かした学校の組織力の向上と活性化
  - (1) 全・定併置校の特色を活かし、互いの協力関係を密にし、更に有効有意な関係を構築する。
  - (2) 運営委員会のメンバーは、学校全体の立場からも意見交換を行い、本校の課題に対する基本的な方向性を確立することに寄与する。
  - (3) 「学校組織運営に関する指針」に基づく学校運営を行う。分掌に位置付けられない組織（Sakura Project Team）の取組みを機能させる。
  - (4) 「学び続ける」教職員の組織的・継続的な人材育成を図る。
  - (5) 働き方改革の継続、ノークラブデー、全庁一斉退庁日の実施。残業時間月平均80時間未満の厳守。
  - (6) ミドルリーダーの育成。経験の浅い教職員へのOJT等の充実を図る。
6. 個人情報等の適正管理
  - (1) 個人情報等の適正管理をめざす
  - (2) 備品等の適正管理をめざす

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【総括】 保護者、生徒ともほとんどの質問項目で肯定的回答が否定的回答を上回った。また、学校に対する総体的印象を聞く質問である「子どもは学校に行くのを楽しみにしている（保護者）」は86.4%、「桜塚高校は楽しい（生徒）」は88.5%、「学校での生活に満足している（生徒）」は77.2%といずれも高い値を維持した。</p> <p>【学習指導】 ・「授業はわかりやすい（生徒）」が59.2%、「授業は学力向上に役立っている（生徒）」が67.2%、「子どもは授業がわかりやすいと言っている（保護者）」が55%で、授業満足度は高いとはいえない。わかりやすい授業のために何が必要か、さらに検討をしてゆく必要がある。</p>	<p>【第1回（6月21日）】</p> <p>○平成30年度学校経営計画について ・倍率もよく人気も上がっている。今後ともよりよい学校経営を期待している。 ・全日制桜塾、講習などの発展を期待する。</p> <p>○その他学校の取組みについて ・すこやかネットでの連携を評価する。すこやかフェスタの出場など継続を期待する。</p>

## 府立桜塚高等学校

・今年度も5月と11月を「授業改善月間」と称し、教員による相互授業見学や研究授業を行った結果「他の先生が授業を見学に来ることがある(生徒)」は73.2%であった。

・「授業などで情報ICT機器を活用している」は86.7%であった。ICT機器の活用に不慣れな教員もいるので、教員同士の教えあいを進め、全ての教員がICT機器の活用に習熟するようになっていく必要がある。

## 【生徒指導】

・「生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている(生徒)」の肯定的回答は68.8%であり、「先生は協力して生徒指導にあたっている(生徒)」の肯定的回答は72.6%であった。生徒はおおむね本校教員の生徒指導を好意的に受け入れているといえる。

・「桜塚高校の生徒指導の方針には共感できる(保護者)」は79.7%で、本校の生徒指導は保護者にもおおむね理解を得ている。

## 【進路指導】

・「将来の進路や生き方について考える機会がある(生徒)」は78.1%、「桜塚高校は将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている(保護者)」が76%であった。大学受験だけでなく、その先の人生も含めた「キャリア教育」の指導を充実させる必要がある。

## 【自治活動】

・「部活動に積極的に取り組んでいる(生徒)」78.7%、「学校行事は楽しく行えるよう工夫されている(生徒)」79.9%、「部活動は活発だと思う(保護者)」86.9%、「子どもの興味関心意欲を引き出す行事が行われている(保護者)」91.9%で、部活動や学校行事に対する生徒、保護者の評価は高い。

## 【施設設備】

・「校舎や体育施設は整備されている(生徒)」67%、「施設設備は満足できる(保護者)」46.7%で特に保護者の満足度が低い。

## 【地域連携等】

・豊中市や岡町商店街との各種連携事業や東日本大震災の被災地支援ボランティアで始まった岩手県立大槌高等学校との交流について、肯定的評価は生徒62%、保護者84.5%、教職員89.9%であった。生徒の意識と保護者、教職員の意識に差がある。生徒の意識を高めるような取り組みを考えてゆく必要がある。

## 【情報提供】

・「桜塚高校は、進路に関する情報提供に努力している(保護者)」は76.2%、「桜塚高校の『ケータイ連絡網』によるメール発信を知っている」は76.7%、「教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている(教職員)」は88.3%であった。概ね適切に情報提供を行っているとは評価されたが、進路の情報提供の頻度や方法についてはさらなる工夫が必要である。

## 【学校運営】

・「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」が85%、「学校内で他の教員の授業を見学する機会がある」が95%であり、教職員は協働して業務を進めている。

・「PDCAサイクルによる学校経営を推進している」は69.5%、「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」は66.6%であり、まだ十分とはいえないが、以前よりは改善されている。

・「教職員の服務規律への自覚が高い」は93.3%であり、服務規律に対する意識は高いといえる。

## 【第2回(10月11日)】

## ○学校経営計画の進捗状況について

- ・教材配信システム「Google Classroom」「Wifi 環境整備及び先生に配布しているノートPCの活用。
- ・グローバルリーダーの育成を謳っている中で、現1年生の修学旅行が国内で予定されているが、生徒のニーズがあるなら海外を検討するのはどうか。

## ○授業アンケートについて

- ・授業アンケートの教科科目ごとの結果を教科に返して、授業改善策を検討する。

## ○その他

- ・重点を決めてしっかり取り組んでいるように思う。引き続き頑張ってもらいたい。
- ・クラブ(軽音楽、ダンス、ラグビーなど)の地域参加はとても助かる。

## 【第3回(2月21日)】

- ・全日制の学校教育自己診断の結果より、生徒による尚和会の認知度が半数を超えていることが分かって嬉しい。引き続き、学校行事を通して尚和会をアピールしていきたい。

- ・全日制の学校教育自己診断の結果より、地域連携の行いについて、生徒と保護者や教職員との間に意識の差が見られる。商店街の立場からすると、生徒たちに参加してほしいという強い気持ちがあるが、一方的に押し付けるのではなく生徒に対して参加する意義をきちんと伝えて参加してもらうことを忘れないようにしたい。また、地域連携などに参加すると生徒の意識は高くなるが、参加する生徒が決まった部活動部員や、自治会生徒に偏ってしまっている。全生徒が対象となるような呼びかけが必要と考えている。

- ・項目が多いと生徒は答えるのが大変だと思う。質問の量の多さ故に分かることもあるが、質の高い質問をする方がいい。「集中して先生の話の聞いているか」のような受け身の質問ではなく、小中学校で実施している学習状況調査のように、「自分の意見を発表する場があったか」など主体的な学びがあるかを問い、何を身につけさせたいかが明確に分かるような質問の方がよいと感じる。新カリキュラムに対応して、アンケートを抜本的に変更することを検討する必要がある。

- ・すこやかネットの活動として、11月10日に地域のごみ回収を行った。野球部員や自治会生徒が参加してくれ、小学生とともに頑張っていた。すこやかニュースに掲載する予定。校長先生の野菜ブースや自治会生徒による劇も大変好評で、一段と桜塚の魅力が伝わった。今後も地域連携へのご協力をお願いしたい。

- ・生徒に電子機器を購入させる。キーボードを使えない大学生が就職活動のときに困るという事例が増えている。大学でもタイピングの練習を組み込んでいる。キーボードも使える機種はよい。

- ・残業時間を減らすには生徒対応やクラブ活動の時間も見直さないと実現は難しいと思うが、生徒にしわ寄せが来ないような対応は考えているのか。残業時間の減少と、生徒への手厚い指導のバランスを取ってこれからも頑張ってもらいたい。

- ・土曜授業の見直しに伴い、木曜7限にLHRという変更は、単位数の減少により、学力をつけてほしい保護者からは反対の意見もあるかもしれない。しかし、教科の単位数以上に、授業の在り方を見直すことが大事。LHRの時間の中でも様々な問いかけを投げかけ、生徒の自発的な学習に結び付けてほしい。そうすることが先生方のゆとりにもつながり、結果的に生徒への細かな対応に成果が出ると思う。

- ・保護者は学校の雰囲気をよく見ている。桜塚高校はのびのびやっていると良い評判を耳にするので、風紀を乱すことなく、これからも頑張ってもらいたい学校にしてほしい。

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学ぶ力をつける	<p>(1)Wi-Fi 環境の整備。スマホ活用授業の展開</p> <p>(2)英語 4 技能の向上</p> <p>(3)進路講演会及び生徒向け無償・有償の講習実施</p> <p>(4)授業改善</p> <p>(5)総合基礎（朝学）の充実。SSSC の実施</p> <p>(6)専門コース制の活用・充実</p> <p>(7)自宅学習、自習室の活用、講習、補習の体制づくり</p>	<p>(1)授業においてスマートフォンやタブレット端末、電子黒板を活用した「調べ学習」「小テスト」「プレゼンテーション」を行うことで、生徒が主体的かつ協同して学ぶようにする。</p> <p>(2)GSC の授業の一部について、5つの大学から Native English Teacher 等の講師を招聘し、4技能のうち Speaking 力の向上をめざす特別授業とする。GTEC を1・2年で実施する。</p> <p>(3)進路講演会の充実及び教員による無償の「桜塾」、予備校講師等による有償の「オーダー講座」を実施する。</p> <p>(4)授業の冒頭に「めあて」を述べ、授業の終わりに「振り返り」をすることを徹底する。各教科研究授業を行う。教員相互の授業見学を実施する。週1回の教科会により「観点別評価」に基づく授業展開・考査問題作成を行うことで、「桜塚教科スタンダード」と「シラバス」のブラッシュアップを図る。</p> <p>(5)国数英の各教科が生徒にもっともつけたい基礎的学力が何であり、積極的に取り組むことで「何が身に着くか」「何ができるようになるか」を生徒・保護者に明らかにする。また、積極的に取り組まない生徒への指導・補講を行う。SSSC において高校での学習の仕方について学ぶとともに、外部講師による講演や大学（国公立）見学を行って自らのキャリアデザインをさせる。</p> <p>(6)専門コースが学校全体を牽引し、学力の更なる効果的な向上を図る。</p> <p>(7)スマホ・タブレットを有効活用した自宅学習の推進を図る。5:30 以降の講習受講や自習室の活用を促す。</p>	<p>(1)授業アンケート～教材活用「先生は用具の他、ICT 機器や役に立つ教材などをうまく使っている」70%以上</p> <p>(2)受験者の50%がGTECスコア690以上（英検準2級以上）そのうちGSCの生徒は20%以上がスコア960以上（英検2級以上）。</p> <p>(3)満足度80%以上</p> <p>(4)生徒向け学校教育自己診断「授業はわかりやすい」70%以上</p> <p>(5)総合基礎（朝学）の上位評価「課題に意欲的に取り組んだ」90%以上</p> <p>(6)センター試験において各科目とも全国平均以上</p> <p>(7)スマホ・タブレットを有効活用した勉強法を紹介。5:30 以降講習受講者の昨年度（60名）比2倍増を目ざす。</p>	<p>(1) 授業アンケート～教材活用「先生は用具の他、ICT 機器や役に立つ教材などをうまく使っている」80%。（◎）</p> <p>(2)2年 GSC 対象 Speaking 力向上のための大学教授出張授業は、生徒アンケートで肯定的評価 94%～100%と好評であった。初めてのGTECについては1/9実施に向けて12月の英語の授業で事前指導を行なった。結果は、GTECスコア690以上（英検準2級以上）80%そのうちGSCの生徒は9.8%以上がスコア960以上（英検2級以上）であった。（○）</p> <p>(3)3年6月・7月に国公立・私立別の講演（外部講師と本校教員）実施、満足度を示す肯定的評価は外部講師が79%、本校教員が98%。1・2年の3月講演の満足度は82%。有償のオーダー講座の生徒定着率59%。講師別の講習評価も実施し、講師に改善を求めた。（○）</p> <p>(4)授業相互見学でほとんど全ての教員が授業を見学した。教科スタンダードとシラバスのブラッシュアップ作業も学年末完成をめどに教科に呼びかけを行なっている。「授業はわかりやすい」は59%にとどまった（△）</p> <p>(5)総合基礎（朝学）の成績優秀者を1・2学期終業式で表彰することで、家庭学習を含めて積極的に取り組むように働きかけた。上位評価「課題に意欲的に取り組んだ」は全学年で90%以上となった。SSSCについては実施場所を近隣施設に変更し、宿泊教員数も減らす等、教員の負担を軽減するとともに、生徒全員がイスと机のある環境で学習活動等を行えるようにし、改善が図られた。（◎）</p> <p>(6)3年生GSS,GSCは概して学習意欲が高いが、全体平均は全国平均以下だった。センター平均はGSCの英語が149点に達し、全国平均、学校平均を大きく上回った。他の科目も一部科目を除いて全国平均に達した（○）</p> <p>(7)全教員に配布したパソコンでGoogle Classroomの活用について、まず全教員が体験した。スマホ・タブレットを有効活用した勉強法を紹介。（◎）5:30 以降の「桜塾」は、「外部講師による有料講座」含め約250名と、約4倍に増えた。（◎）</p>
2 人間力をつける	<p>(1)「あいさつ運動」の推進 遅刻数の減少</p> <p>(2)教育相談体制の充実</p> <p>(3)地域貢献・国際交流</p> <p>(4)部活動の充実</p>	<p>(1)学校全体でさらにあいさつが活発になされるよう、啓発を推進する。時間を順守することの大切さを再確認する。</p> <p>(2)「生徒一人ひとりを大切に」本校の教育を推進し、カウンセリングマインドを取り入れた指導を組織的に行い、生徒相談機能を高める。</p> <p>(3)地域連携・地域貢献活動・国際交流活動を行うことで異世代・異文化との交流に生徒が参画し、教員は活動を支援・促進する。</p> <p>(4)部活動、自治会活動等を通じて生徒に達成感や自尊感情を育む。</p>	<p>(1)学校教育自己診断結果における関連項目での肯定率70%以上を維持（29年度75%）前年度遅刻数の1割減</p> <p>(2)学校教育自己診断結果における関連項目での肯定率平均4%向上（平成29年度59%）</p> <p>(3)年間3回以上の実施</p> <p>(4)教職員向け学校教育自己診断関連項目90%以上を維持（29年度95%）</p>	<p>(1)11月に1週間、あいさつ運動を兼ねた「遅刻防止週間」キャンペーンを風紀厚生委員の生徒とともに実施。2月にも行う予定。学校教育自己診断結果におけるあいさつに関する項目での肯定率生徒68.8%、教員86.4%（△）。遅刻者数は3年生で約1割減となったが、遅刻総数は昨年度とほぼ同数となった。（△）</p> <p>(2)生徒相談・いじめについてのアンケートを実施するとともに、相談窓口を周知し教育相談体制を充実させたが、肯定率平均は58%。（△）</p> <p>(3)軽音部、ダンス部、茶道部、箏曲部、執行部などが地域イベントに参加。中国、韓国、台湾、アメリカ、ウズベキスタンなどの高校生と国際交流。実施回数約30回（◎）。</p> <p>(4)軽音楽部とダンス部が全国大会出場。教員の自己診断結果は96.7%と昨年度よりもさらに上昇（◎）</p>

## 府立桜塚高等学校

<p>3. 地域の信頼される学校としての桜塚を促進・広報する</p>	<p>(1) 豊中市各機関との連携、オール桜塚による支援、大学等との連携 (2) 岩手県大槌高校「さくら協定」 (3) 生徒も広報に参画、中学校等訪問、学校説明会実施</p>	<p>(1) OB・OG、豊中市役所をはじめとする公的機関、大学、各種団体との連携と支援を生かした取組みを展開する。 (2) 平成 24 年度に岩手県立大槌高等学校と締結した「さくら協定」に係る事業を発展させ、東日本大震災の被災地に寄り添い連携する態度のさらなる涵養を図り、持続的な支援や交流を行う。 (3) WEB Page を更に見やすくし、更新を頻繁に行う。生徒も、WEB Page の部活動・自治会活動部分の更新等に参画。中学校訪問や学校説明会等を開催して広報活動を積極的に行う。</p>	<p>(1) 公的機関等と連携し、入学式・卒業式にも臨席依頼し、生徒保護者へも周知する。大学と連携し、授業等を依頼し、生徒の自己実現を支援いただく。生徒による学校教育自己診断肯定的回答 70%以上（平成 29 年度 65%）キャリア教育と進路実現に繋げる (2) 年 1 回以上の相互訪問や生徒への趣旨説明 (3) WEB Page を月に 5 回以上更新する。学校説明会参加者数の増加。（平成 29 年約 1900 人）</p>	<p>(1) 豊中市等との連携で、留学生受け入れや親学習等を実施した。しだれ桜の一般公開を今年も実施した。従来の阪大関大との連携に加え、外部講師招聘を通じ、他大学との連携も増やした。地域連携に関する生徒の学校教育自己診断の肯定的回答は 62%。（△） (2) 豊中市ボランティアバス事業に 7 名の生徒が参加し、被災地の人たちと交流し、大槌高校からも 7 名の生徒が来校して交流し、理解を深めた。（◎） (3) WEB Page を 140 回以上更新した（月平均 14 回）。学校説明会参加者数が生徒 1,052 人、保護者 952 人、計 2,004 人。（◎）</p>
<p>4. グローバルリーダーの育成</p>	<p>(1) 国際交流、短期・長期の留学生受け入れ、海外研修などの機会の充実 (2) 専門コース制に関わる専門科目の充実</p>	<p>(1) 忠南外国語高校との姉妹校協定の締結。ホストファミリーの開拓。国際関係の諸機関・大学などとの連携の強化。NZ、米国、韓国での研修の実施 (2) 「課題研究」の内容の再検討と更なる充実。「英語理解」におけるネイティブを含む大学講師の活用。「第二外国語」「国際理解」など専門科目の充実</p>	<p>(1) 国際交流活動などに取り組み、これを肯定的に評価する生徒する生徒 85%以上（H29 年 79.6%） (2) 授業評価における生徒意識。2 回の平均値 3.5 以上（H29 年度の GS 科目の平均値 3.4）</p>	<p>(1) 韓国・忠南外国語高校との姉妹校交流や台湾、アメリカ、ウズベキスタン、中国の高校生と交流。NZ・米・韓での研修を実施。米・中国・フランスからの 7 名の留学生を含め 7 カ国・地域の 168 名の高校生を受け入れた。国際交流活動等に取り組みを肯定的に評価する生徒 82.4%で 3 年連続で数値は上昇した。（△） (2) 英語理解では大阪教育大、大阪女学院大、大手前大、梅花女子大、武庫川女子大からのネイティブを含む講師が授業を実施。GS 専門科目の授業評価における生徒意識の平均値は 3.2 であった。第二外国語(2 年)3、5・(3 年)3、4・国際理解 3、8 に対して課題研究(GSC)は 2、6（△）</p>
<p>5. ティーム力を生かした学校の組織力の向上と活性化</p>	<p>(1) 全・定併置校の特色を活かし、更に有効有意な関係を構築する。 (2) 課題に対する基本的な方向性の確立 (3) SPT を活用した業務量の平準化 (4) 学び続ける組織的人材育成 (5) 働き方改革の継続、ノークラブデー、全庁一斉退庁、残業時間 (6) ミドルリーダー、経験の浅い教職員育成</p>	<p>(1) 全・定併置校の特色を活かし、互いの協力関係を密にし、更に有効有意な関係を構築する。 (2) 運営委員会のメンバーは、学校全体の立場からも意見交換を行い、本校の課題に対する基本的な方向性を確立することに寄与する。 (3) 「学校組織運営に関する指針」に基づく学校運営を行う。分掌に位置付けられない組織(Sakura Project Team)の取組みを機能させる。 (4) 「学び続ける」教職員の組織的・継続的な人材育成を図る。 (5) 働き方改革の継続、ノークラブデー、全庁一斉退庁日の実施。残業時間月平均 80 時間未満の厳守。 (6) ミドルリーダーの育成。経験の浅い教職員への OJT 等の充実を図る。</p>	<p>(1) 定時制との関係に関する質問を設け、肯定的回答 70%以上。（平成 29 年度 65%） (2) 教員向け学校教育自己診断関連項目肯定率 80%以上を維持。 (3) SPT の稼働。ストレスチェックにおける全校値の低減 (4) 昨年度と同等以上の職員研修回数を確保。PTA との共催研修を企画する (5) 全職員残業時間月平均 80 時間未満 (6) 校内研修を実施し問題意識を共有する。教員向け学校教育自己診断関連項目肯定率+5%（29 年度は 64.1%）</p>	<p>(1) 4 月に全教職員による全定合同職員会議実施（◎） 有料の桜塾実施に於ける協力も得られるなど、協力関係を構築した。肯定的回答は 59%（△） (2) 運営委員会で意見交換を行い、学校運営の基本的な方向性を確認し、肯定率は昨年度を 6%上回り 85%となった。（◎） (3) SPT を活性化し分掌に位置付けられない業務をチームで分担した。ストレスチェックの全校値は、昨年 113 から大幅に改善されて 101 になった。（◎） (4) 校内研修を 8 回実施した。（昨年度は 6 回）。経験の浅い教職員には第 1 ブロック校長協会主催の「行って究！」など外部の研修を紹介した。また、10 月 2 日には本校全定両課程で「行って究！」を合同実施した。（○） (5) ノークラブデーの確実な実施と、全庁一斉退庁日の推進を行った。11 月まで 8 か月間の月平均残業時間の平均が 80 時間を超える職員はいない。（◎） (6) 校内研修に加えて、30～40 代の教員の校外での研修参加を促すとともに、経験の少ない教職員への OJT 等の充実を図ったが、肯定率は 48.4%と-15.7%であった。（△）</p>
<p>6. 個人情報等の適正管理</p>	<p>(1) 個人情報等の適正管理 (2) 備品等の適正管理</p>	<p>(1) 個人情報等の適正管理をめざす (2) 備品等の適正管理をめざす</p>	<p>(1) 個人情報の適正管理に関する研修を年 1 回以上実施する (2) 各室の備品等管理簿（配置図含む）を作成し、引き継げる体制を整える</p>	<p>(1) 各分掌の個人情報管理簿に基づき、適正な管理に努めた。また、教育庁作成の「個人情報の適正管理のために」を用いた研修（9 月 20 日）に加え、12 月 6 日も説明する機会を設けた。（◎） (2) 各室の備品管理簿を更新し、管理状況を確認した。（○）</p>